

小学校の教室配置パターンにおける 異学年交流のあり方の分析と考察

日大生産工(院) 小峰明
日大生産工 曽根陽子

1. 研究の背景と目的

近年の小学校建築では心身の発育状態を考慮して、低学年と高学年の生活圏は分けて、単純に配置されている小学校がほとんどである。2009年4月、群馬県にある高崎市立桜山小学校という学校で異学年交流が平面プランに意識されている小学校が開校した。最近では少子化の影響で兄弟の数が少なくなっているため、学校生活の中で異学年と接する中で身に付く教養が多い事は明白である。

しかし、肝心な教室配置においては単純に従来通り低学年、中学年、高学年を別々に配置されるばかりであり、もっと異学年交流を促進する事を平面プランに意識する事が今後の学校建築に必要な事だと考える。小学校建築の平面図から教室配置パターンや異学年交流が在りうる場所を分析し、今後の設計に役立てる事を目的とする。

2. 研究方法

新建築1999～2009年「学校を変えなくちゃ!!」の雑誌に記載されている35事例の小学校の平面図を分析した。

普通教室の近くに配置されている異学年交流が在りうる教室やスペースを分析し、50箇所抽出し、似ている特性のあるものをまとめながら、それぞれの延べ数を数えた。そして内外合わせて16箇所に分類し(図)傾向を調査する。

次に普通教室と廊下の関係性だけを抽出して、教室配置パターンを分類(図)した。そして最近の35事例の小学校建築の教室配置パターンの流れを研究し、どのパターンに当てはまるか検討した。

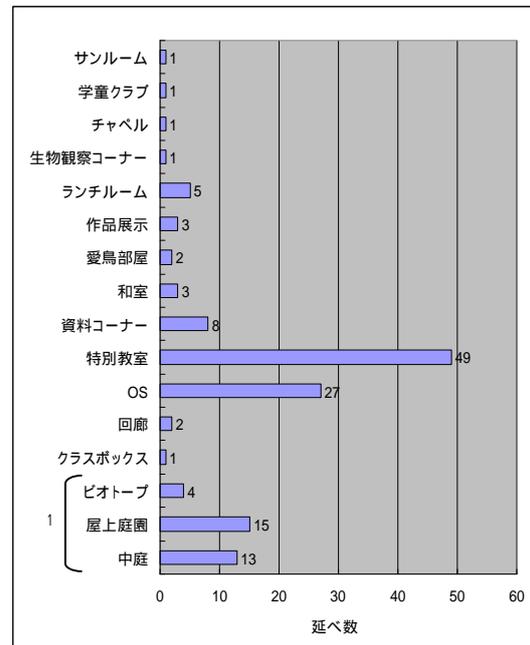


図 異学年交流となる可能性がある教室やスペース (16個に分類)

1 外部、他の13個は内部

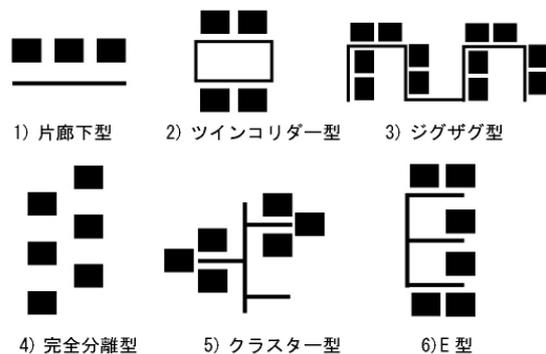


図 教室配置パターンによる分類

表 教室配置パターンの内訳

片廊下型	クラスター型	ツインコリダー型	E型	完全独立型	ジグザグ型
22校	6校	4校	1校	1校	1校

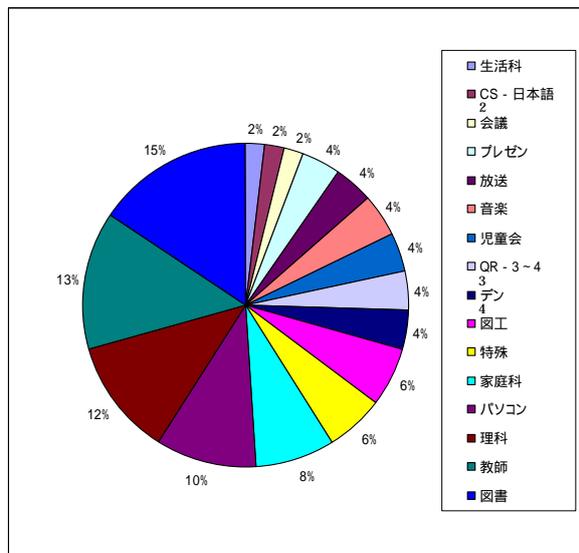


図 特別教室の内訳

- 2 CS = クローズドスペース(日本語での授業を行う場所)
- 3 QR = クワイエットルーム(3~4人の授業に適した場所)
- 4 デン = 洞窟のような奥まった小空間

3. 分析結果

分析した35校の中、L型、コの字型も含む片廊下型の教室配置パターンの学校は半数以上の22校にも及んだ。ついで多かったのがクラスター型の6校で低学年棟、中学年棟、高学年棟に分棟されるものが目立った。次いでツインコリダー型が4校、E型、完全独立型、ジグザグ型がそれぞれ1校であった。(表)

異学年交流のしかけとして50個を取り上げたが39個は内部空間に存在するもので11個は外部のものであった。

内部空間では図工室などの特別教室を近くに配置するのが最も多く延べ数で49、ついで多いのが多目的スペースや子供の作業スペースなどのOSが述べ数で27、メディア教材などの資料コーナーが述べ数で8、ランチルームが延べ数で5であった。他に特質的なものとして、延べ数の多い順にいろりや和室、作品展示コーナー、生物観察コーナー、チャペルコート、学童クラブ(既存住宅)、サンルーム、クラスボックスがあった。特別教室の内訳は図に示す。

外部空間に関しては二階以上に設けられたデッキテラス、ルーフバルコニーなどが延べ数で15が最も多く、ついで一階部分にあるコミュニティーガーデンや学級菜園などの中庭が延べ数で13、観察池や足洗い場などビオトープが述べ数で4であった。

4. 考察とまとめ

分析した35校の内、L型、コの字型を含め片廊下型が半数以上の22校という結果になったが、オープンスクールが主流になる中で教室配置パターンにはやはり大きな変化はなく、結局は戦前の大量生産的な片廊下型の小学校建築計画と似ている教室配置パターンに留まっていると言える。前述した様に、もっと異学年交流を促進する事を平面プランに意識する事が今後の学校建築に必要な事だと考えられる。

大阪での池田事件以来、学校が地域に関われる事が問題視されてきた。しかし、生涯学習意識が高まり、高齢社会における高齢者施設の需要の増大、少子化による生徒数の減少と学校施設の統廃合や再結成などが公立小、中学と地域公共施設を複合的に整備する事例が増えつつある。異学年交流のしかけとして11個外部への仕掛けを抽出出来たが、学校が地域に関われる事に目を向けられてきている結果だと考える。

今後の研究調査としては、群馬県にある堤ヶ丘小の生徒が増えすぎてこの学校の生徒の半分が前述した高崎市立桜山小学校に通うこととなった。堤ヶ丘小は片廊下型の異学年交流は全く意識されない教室配置パターンの学校である。去年まで堤ヶ丘小に通っていて今年4月から桜山小に通うことになった生徒(2~6年生)に異学年の教室の遠近で交流は深まったのかなどの意識調査をアンケート調査で実施する。

「参考文献」

- 1) 建築雑誌「新建築」1999年6、7、8、12月号
- 2) 建築雑誌「新建築」2000年4月号
- 3) 建築雑誌「新建築」2001年12月号
- 4) 建築雑誌「新建築」2002年8月号
- 5) 建築雑誌「新建築」2003年6、7月号
- 6) 建築雑誌「新建築」2005年5、7、9月号
- 7) 建築雑誌「新建築」2006年4、6、9月号
- 8) 建築雑誌「新建築」2007年5月号
- 9) 建築雑誌「新建築」2008年6、9月号
- 10) 建築雑誌「新建築」2009年7、9月号
- 11) 雑誌「日系アーキテクチャ」2009年7月13、p20~25
- 12) 建築雑誌「GAJAPAN」2007年11、12月号
- 13) 建築雑誌「GAJAPAN」2009年7、8月号
- 14) 学校を変えなくちゃ!! 編集委員会「学校を変えなくちゃ!!」金田泰男、2002年、p66~101
- 15) 上野淳「学校建築ルネサンス」鹿島出版会、2008年 p100~182